

ステップアップスクール当仁 研修会 2015年12月5日(土)

講師：福岡子ども短期大学教授 武部愛子 先生

講演：スクールカウンセラーから見た子育て ～思春期・不登校・特別支援教育～

18時から当仁公民館で講演会がありました。主な内容は子どもの発達段階と親の関わり、軽度発達障がいへの理解など基本的な話をさせていただいた後、質疑形式で今保護者が困っていることに対して具体的なアドバイスをしていただきました。最後に個別面談の時間では個々の悩みに対して相談に応じてもらい21時過ぎに終了しました。

- ・発達のばらつき（人は必ず何らかの発達障がいを持っている）
- ・集団との認知のずれが大きくなると集団の適応が難しくなってくる。特に同年代での適応は難しい。（適当にやるということができない）
- ・発達障がい：7割以上の人と生き方考え方が違う。学校で学習を進めていくとき平均的な考え方に合わせて進むが、発達に課題があると感性が違うので盛り上がる場所が違う。「なんでわからないの?」というのは認知のずれがあるから。
- ・「認められる・頑張ったことをほめられる」結果が出なくても応援すると自分の中から頑張る力が出てくる。
- ・障害は病気ではない。恒久的に続くもので変わらない。しかし、生き方の工夫を学習することはできる。
- ・自分の弱点を知る。欠点ではない。
- ・他者に対しては強く言うが自分が言われるのは弱い。（傷つきやすい）

質問：子どもが自分の思った通りに行動できなかつたらイラつく。個性だと言って笑顔で見守ったり、ユニークな所を面白がる気になれない。

アドバイス：子どもは親の背中を見て育つ。最近の親子は向き合いすぎ。その内ぶつかってしまう。親の思ったようには動かないし、伝え方を工夫するのも一つ。

質問：子どもが嘘をつくことに悩んでいる。

アドバイス：「嘘ではなく本人なりの工夫。①事実と思ひ込む（最初は保身、そのうち事実と思ひ込む）自閉症型は記憶の仕方が違う。②嘘をついているというように意識をさせないほうがいい。

質問：子ども学校の話などをしない。

アドバイス：「今日どうだった」「別に。」＝何を説明したらいいかわからない。良かれと思った助言も自分のやったことを否定されたとする。聞くときは事実を全面的に認めてあげる。びっくりすることがあっても受け入れる。何でも聞ける環境を作る。

質問：自分の部屋の片付けができない。

アドバイス：綺麗にして気持ちがいいというのは10歳ぐらいの年齢。それ以前は大人の言うとおりにしているだけで本人の必然はほとんどない。発達の遅れがあると「なぜきちんとたたんで入れなければならないのかの理由が理解できない。しかし放置もできないので、「きれいにするよりなくなっちはいけないものがなくなるようにするのが目的。」子どもと一緒に段ボール箱に入れていく。手本と声掛けを中心に実際の仕分けは本人がしていくようにさせる。

